



しらさぎ

求めて学ぶ 考えて行う 自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより NO. 4
(通巻187号)
令和元年(2019)
5月15日(水)

子供たちのための『働き方改革』を

校長 飯野 博史

若葉の緑が美しい季節となりました。6月1日(土)の運動会に向けての練習が始まりました。気温が上昇し、疲れがたまりやすい時期でもあり、安全面には十分留意して指導していきます。ご家庭でも運動会の練習について話題にしてみてください。

今、教員の働き方について話題になっています。まとめてみました。

■子供たちのための「働き方改革」の必要性

世界的に見ても、日本の学校教育は生活面・学習面にわたるきめ細やかな指導により、高い水準を維持してきました。国際的な学力調査においても高い評価を得ています。学校、家庭、地域社会が連携し、子供たちにとってよりよい環境づくりのためそれぞれが努力してきた成果と捉えます。

一方で、社会は大きく変化し、学校に求められるものが急速に拡大しつつあります。本来の授業と並行して、プログラム教育、オリンピック・パラリンピック教育、国際理解教育、消費者教育、環境教育、キャリア教育など、次々と「〇〇教育」を取り上げることになりました。

SNSの広がりにより情報教育も重要となりました。スマホによる生徒間のトラブルが発生すれば事実関係を確認し、保護者にも連絡するなど、生徒指導にも大幅な時間がかかることもあります。こじれてしまうとさらに時間がかかり、教員の精神的な負担も増大します。児童虐待などの問題があれば学校も関わり、時間を割いて取り組んでいるのも現状です。次から次へと課題が膨らんでいく一方で、減らすものが見当たらないのが実情です。

また、中学校では部活動があります。八中では全教員が顧問となり、生徒とともに活動しています。部活動は本来教育課程外のものであり、生徒にとっても教員にとっても自主的な活動です。八中の教員は少しでも生徒たちに部活動を楽しんでもらおうと部活動の指導にあたっています。18時30分、部活動の指導を終えてから、ノート等のチェックや翌日の授業の準備などを行っているのが現状です。土曜、日曜日に大会等があれば引率もあります。

業務が膨らむ一方で、このままでは学校がパンクしないのだろうか、教員の本来の業務である授業がおろそかになっているのではないか、その結果生徒に学力が身についていないのではないか、「生徒のために」という教員の善意に頼っているばかりでは学校が成り立たなくなってしまうのではないか、長時間勤務で教員の健康が冒されているのではないか、社会が大きく変化する中で、ここにきて様々な課題が噴出してきたと言えます。

それに伴い、教員の働き方が大きな問題となっています。一般に週の勤務時間は40時間とされているにも関わらず、教員実態調査(平成28年 文部科学省)によると、小学校では約3割の教員が、中学校では約6割の教員が月80時間の時間外勤務をしているという状況です。これは過労死ラインを超えている状況で、学校における「働き方改革」は待ったなしとなりました。精神的な疾患で休職する教員も増えています。

子供たちの視点を大切に「働き方改革」をどう進めていくのか、校長にリーダーシップが求められているところです。八中の「働き方改革」について裏面にまとめてみました。

保護者の皆様のご理解も必要です。ご意見などがありましたらぜひお寄せください。

◎八中における「働き方改革」基本的な考え方

- (1) 教員のこれまでの働き方を見直すと同時に、自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対してゆとりをもって効果的な教育活動を行う。
- (2) 「子供のためであれば長時間勤務もやむなし」とする働き方で教員が疲弊するのであれば、真に子供のためにはならない。教員の意識改革が必要である。
- (3) これまでの教育活動を低下させることなく維持・向上させ、持続可能なものとする。

○主な具体的な方策・取組

【学習指導】

- ・電子黒板などを積極的に活用し、作成したプログラムやワークシートなどを共有する。
- ・放課後学習教室、定期考査前土曜補習教室、夏季補習教室に学習指導員を活用する。
- ・カリキュラム・マネジメントにより、教科を超えた横断的な学習指導計画を作成し、全校で効率的な指導に努める。
- ・定期考査後の採点、評価時間を十分確保し、その後の指導に生かす。
- ・小・中連携二校研修会で小学校での既習事項を確認し、効率的な指導をする。

【日常の業務】

- ・印刷、配布物、小テストの採点など、スクール・サポート・スタッフ（ＳＳＳ）の活用を図る。（現在まだ決まっていない）
- ・ＩＣＴ、ファイリングシステムを整備・有効活用し、いつでも、誰でも文書が取り出せるようにする。
- ・机上や職員室内の整理整頓に心がけ、効率的に業務を処理する。
- ・夏季休業日に教育活動停止日を４日間設定し、夏季休暇取得を促進する。
- ・１９時３０分以降は留守番電話での対応とし、緊急時以外は翌日対応とする。
- ・職員会議の回数を減らす。議案の検討は企画会で行い、職員会議では連絡・報告・確認のみとし、時間短縮を図る。むやみに時間の延長をせず定刻で切り上げる。朝の打ち合わせで済むことはそこで済ませる。
- ・行事の精選を行う。それぞれ意義のある行事として実施してきたが、本当に生徒にとって必要なものか、他の取組で代替できないか吟味し、行事のスリム化を検討する。（例えば３年生卒業前の校外学習、校内駅伝大会、敬老の日の手紙、職場体験の日数など）
- ・一人週１回「マイ定時退勤日（ノー残業デー）」を設定する。そのために、日常的に職務の効率化を考え実践する。同時に、お互いに声を掛け合って早く退勤できる雰囲気づくりをする。年次有給休暇、夏季休暇などを取りやすい雰囲気づくりに努める。

【部活動】

- ・運動部、吹奏楽部を中心に顧問を複数体制とし、交代で指導にあたる。
- ・部活動の精選を行う。
- ・休日の活動、試合引率なども顧問が交代で行う。
- ・外部指導員の活用を図る。（現在は、バスケットボール部、サッカー部、吹奏楽部、囲碁・将棋部、家庭科部で活用）
- ・「部活動に関する活動方針」を作成し、原則として週２日以上休養日を設ける。練習を量から質に切り替える。（「部活動に関する活動方針」はホームページに掲載予定）

【校長の役割】

- ・授業をはじめ、教育活動の低下を招かないように教育活動の充実に努める。
- ・教員の出退勤時間の状況を把握し、健康管理に留意する。時間外の地域行事（祭礼パトロールなど）など、教員の過度の負担になるものについては改める。
- ・教職員との日常的なコミュニケーションを大切にし、働きがいのある職場をつくる。
- ・『働き方改革』は子供たちのためである」という視点を大切に、教員の意見を聞き、小さなことでも実践する。「働き方改革」について保護者・地域との窓口となり、理解を促進していく。